

ヌルデ

別名フシノキ。山すそなどの陽当たりの良い場所にたくさん自生しています。枝先に放射状の花穂がのび出て、ちょうど今ごろ、黄白色の小さな花がびっしりと咲きます。特に美しいわけではありません。敢えてとりあげたのは、ダムサイトのり面の緑化に用いたからです。



ヌルデはいわゆる先駆樹で、生長が早く、陽当たりさえ良ければ水分や肥料分に贅沢をいりません。のり面緑化にはうってつけですが、採用した理由はこれだけではありません。

以前住んでいた借家の庭には、5メートルほどのクロガネモチがありました。その根本には、ヌルデやナンテンなどの実生が、毎年たくさん生えてきました。クロガネモチの実を食べに来た鳥の糞に、これらの種子が含まれていたのでしょう。ということは、ヌルデが結実すれば、その根本にも他の植物の実生が生えてくるはずですが、ただし、ヌルデと同じ冬に結実するものに限られるでしょう。

ダムサイトのり面の緑化には、先駆樹のアカメガシワとクサギも用いました。アカメガシワはちょうど今ごろ、クサギは10月ごろが結実期です。どちらもよく鳥に食べられています。鳥のたすけを借りて、年とともに植生が多様化していくこと。これが一番大きな目標です。